

## 文の構成 ↳スピーチ↳

今回の学習のポイント

- ① 「スピーチ」とは
- ② 「スピーチ」をするために

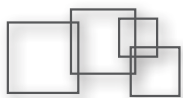
### 「スピーチ」とは

「スピーチ」とは、多くの人々の前でする演説のことです。結婚式や祝賀会など改まった席で行われるスピーチ、学会やシンポジウムで行われるスピーチ、選挙の立候補者が街頭でするスピーチなど、スピーチはさまざまな場面で求められます。例えば、皆さんが多くのクラスメートの前で行う自己紹介もスピーチの一つです。

### 「スピーチ」をするために

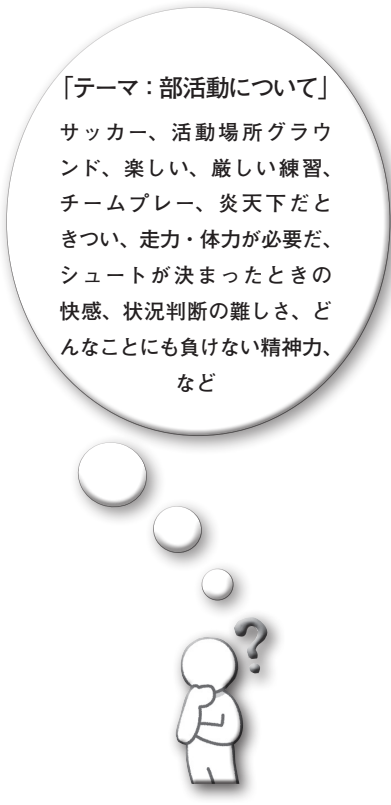
人前で話すことは難しい。これはよく耳にするフレーズです。友達や家族の前では上手に話せるのに、どうも先生やあまり知らない人を目の前にすると、うまく話せない。誰にでもこのような経験はあるものです。人前で話すのが苦手だと感じる要因の一つに、話し手と聞き手の人間関係が挙げられます。聞き手を意識するととたんに緊張したり、何から話してよいのかわからなくなったりするとうような話をよく聞きます。話し手も聞き手もお互いのことをよく理解し合っていればこのようなことはないのかもしれませんが。しかし、スピーチが求められる場ではほとんど知らない人を面前に話すことが一般的です。

これらの課題を解決するために、スピーチをするうえで有効なポイントがいくつかあります。次に示すポイントを意識して、まずはスピーチ原稿を作ることから始めてみましょう。



1 「テーマ」を意識する

スピーチでは、「テーマ」をしっかりと意識することが大切です。左の図のように「テーマ」に沿ってあれこれ考えてみると、具体的な事柄が浮かんできます。スピーチには、時間の制約があります。それを踏まえると、頭に浮かんだすべての事柄を話すわけにはいきません。そこで、次に挙げる2が重要になってきます。



2 「テーマ」「1」に基づいて最も伝えたいことを考える  
聞き手が「どのよつな人たち」なのかを考え、話す内容を整理する

1で頭に浮かんだ具体的な事柄のうち、自分自身が何を最も伝えたいのかじっくり分析しましょう。誰かに知ってもらいたいおもしろさや魅力、努力したことやそれによって気づかされたことなど、数多く挙がってきます。また、ここで「伝える目的」をとらえ直すことも大切です。事実や出来事を知ってもらうことが目的なのか、感想や意見、学んだことを伝えることが目的なのか、自分自身の内面によく働きかけて、それを吟味しましょう。

また、スピーチの聞き手が「どのよつな人たち」なのか分析しましょう。誰にスピーチをするのかということは重要なことです。聞き手が同じくらいの年齢の人か、小さな子どもであるのかという違いで、話す内容を変える必要が出てくるかもしれません。また、自分自身と聞き手の間の面識や共通点の程度によっても異なります。これらのことから、1で挙げた具体的な事柄のうち、何を取り上げることが効果的で聞き手の興味につながるのかということを考えて、話す内容を整理することが大切です。

3 「文章構成」を考える  
「結論」を述べてから「具体的なエピソード」「>

最も伝えたいことや具体的な事柄、聞き手の状況をとらえたら、話す順序を考えましょう。これを「文章構成」と言います。それには、三段落構成（序論・本論・結論）が適切です。この構成法に基づいて、各段落で話す内容を箇条書きにして実際に書いてみるのもよいでしょう。

スピーチは、耳でとらえる文章です。作文のように再び読み直すことはできません。したがって、「結論」から話すことで、最もわかりやすく伝えることができるようになります。「結論」を述べたら、「具体的なエピソード」を話しましょう。このことで、話の筋道がわかりやすくなります。また、一文を簡潔にまとめ

ましよう。一文が長いと、聞き取りにくく、内容がわかりづらくなることしばしばあります。

最後に、話す文量について確認します。一般的に、一分間三〇〇字程度(原稿用紙四分の三ほど)が目安だとされています。話す速度にもよりますが、求められた時間に応じて参考にするとよいでしょう。

#### 4 目線・表情・声の大きさ

スピーチでは話す内容ばかりではなく、はっきりと聞き取りやすい声で話すことも重要です。また、話し手の目線の用い方や表情の豊かさも、スピーチを効果的に伝える有効な手段になります。手の動きなども同様です。聞き手の目に映るものは、スピーチをするうえで欠かせない情報源になります。楽しい話は明るい声や表情で、真剣に伝えたいときは情熱的に。身体の動きを効果的に取り入れながら、表現を工夫して、多くの人の心をつかんでいきましょう。

#### まとめ

スピーチは、豊かな表現方法です。話す内容だけではなく、話し手の声の響きや目の表情、手の動きなどが加わることで、話し手の思いや個性がおのずと立ち表れていきます。文字で書かれた文章にも味わい深いおもしろさがありますが、スピーチにはまた一味違う魅力が感じられます。話し手の人間性が視覚や聴覚を通してダイレクトに伝わること、スピーチを通して生じる話し手と聞き手の一体感、話し手と聞き手の間に生まれる人と人との新しいつながり。コミュニケーションの持つさまざまな可能性が感じられます。

スピーチは練習を繰り返し返したり、場数を踏んだりすることで着実に上達します。ぜひ、どんな場面でも失敗を恐れずに自分らしく堂々と話しをし、その思いを多くの人に伝えてほしいと思います。